

Faculty of HEALTH and SPORTS SCIENCE

GUIDE BOOK 2025



同志社大学

スポーツ健康科学部

競技者である前に、学生であること 与えられるのではなく、自ら求めること。

同志社大学スポーツ健康科学部には、全国各地から学生アスリートが集います。

インターハイで活躍した者、甲子園で汗と涙を流した者、スポーツと勉強の両立に必死に努力した者・・・

多くの学生が本学部を目指すのは、大学としての真の学びがあるから。

We are students.—— ここには悔いのない大学四年間があります。

学部理念	01
カリキュラム	03
ゼミ	05
在校生が語る「同志社」観	11
キャリアデザイン	13
卒業生が語る「我が同志社」	13
施設紹介	15
教員紹介	16
奨学金・学費・入試情報	17
留学・国際交流・大学院	18
研究室を訪ねて・ACCESS	19

《表紙：空手道部 大内美里沙》

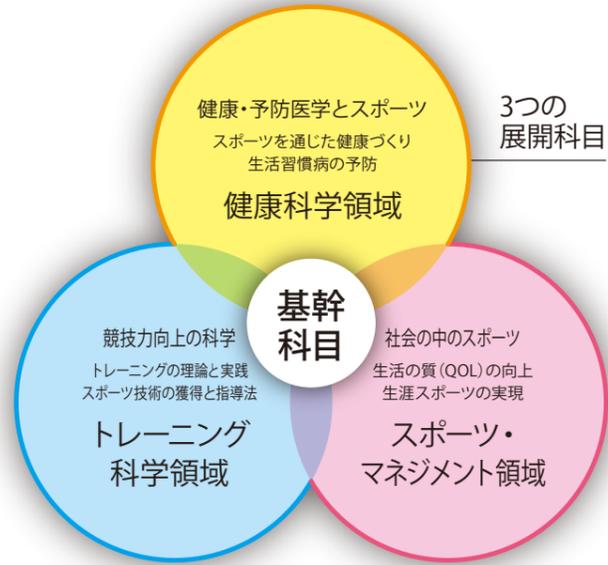


Training——スポーツには、トップアスリートが見せる記録や最高の技術を競う世界と子供から高齢者までが楽しむ生涯スポーツとしての二つの側面があります。いま、そのどちらにおいても正しく効果的なトレーニングとサポートのための専門知識と高い技術が求められています。

Health——「人生100年」と言われる時代、健康長寿に対する社会的な意識は、ますます高まりを見せています。QOLの向上に欠くことのできない「スポーツ」や「健康」と、密接な関わりを持つ学問領域に、産学共同研究やフィールドワークを通して科学的にアプローチします。

Management——オリンピックやワールドカップに代表されるように「スポーツ」は、国民に大きな影響を与える存在になりました。これまでの「する」「みる」に加えて、「ささえる」という視点でスポーツを考える時、そこにはマーケティングやマネジメントという学問領域が必要とされます。

基幹科目をベースに3つの学修領域を多面的に展開。健康の維持・増進とスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる多様な人材の養成を目指します。



スポーツ健康科学部では、「健康科学領域」「トレーニング科学領域」「スポーツ・マネジメント領域」という3つの学修領域のいずれかを軸としながらも、複数の領域にわたるフレキシブルな科目選択ができます。さらに、総合大学ならではのメリットを生かして他学部の科目選択も可能です。少人数の指導体制のもと、横断的・複合的な学習でめざす将来へと導きます。

POINT 1 自由な履修システムと3つの履修モデルの提示

スポーツ健康科学は、予防医学からスポーツ指導法、そして行政学や社会学の一部までカバーする文理融合型の応用総合科学です。そのため、多様な関連領域から自由に科目を選択する履修システムをとっています。しかしそれが科目履修を分散的にすることもあるため、スポーツ健康科学部では、それぞれの希望進路や学修目的に応じて、一定の体系的履修が可能となるよう「健康科学」「トレーニング科学」「スポーツ・マネジメント」という3つの履修モデルを提示し、系統的・体系的な学修と多様な関連・隣接科目を両立して学ぶことができるようにしています。

POINT 2 ファースト・イヤー・セミナーと演習による少人数制の教育

学修の実質的効果を考慮して、1、2年次での最高登録単位数を44単位に抑えたいと、1年次の前半と3年次、4年次に専任教員が担当する少人数制のゼミが必修科目として置かれています。4年間8セメスター(8学期)のうち、実に5セメスターに少人数のゼミ形式の授業があることとなります。第1セメスターには「ファースト・イヤー・セミナー」が、第5～8セメスターには「演習Ⅰ～Ⅳ」が置かれています。このように少人数のゼミ形式授業が多く置かれることによって、大規模な学部とは異なり、学生がそれぞれ専門分野の専任教員に親しく接し、きめ細かい学習指導を受けることができ、4年間を通して段階的・効率的に学修を深化させていけるよう配慮されています。

POINT 3 基礎実習による幅広い実験・実習能力の獲得

スポーツ健康科学は文理融合型学問です。そのため、自然科学系と社会科学系に必須の基礎的な実験・実習能力を身に付けておかなければなりません。文系だからといって自然科学の実習・測定法は知らない、理系なので社会科学の調査法はわからない、というのでは、真に文理融合型の学士(スポーツ健康科学)を取得したとは言えないでしょう。そこで、基礎実習やスポーツ健康科学応用演習で幅広い実験・実習能力を学修できるようにしています。また、スポーツ科学理論の表現型ともいえる実技能力も修得出来るようにスポーツ方法実習・指導法実習で4単位を必修化しています。

POINT 4 総合大学のメリットを生かし他学部の専門科目の一部を共通化

生命医科学部と専門科目の一部を共通化して、医学・健康科学関連の科目の充実を図るだけでなく、総合大学のメリットを生かして、心理学部や他学部(社会福祉など)の関連科目の充実を図り、カリキュラムの多様性、総合性を確保しています。

スポーツ健康科学部の特徴的な学びの流れ

	必修基礎科目	必修演習科目	基幹科目	展開科目	応用科目	隣接科目
1年次	<ul style="list-style-type: none"> ●ファースト・イヤー・セミナー ●スポーツ健康科学入門 ●生理学 ●スポーツ生理学 ●スポーツ社会学 		<ul style="list-style-type: none"> ●健康運動論 ●スポーツ政策論 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ機能解剖学 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ方法実習 フィットネス、器械運動、水泳、バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球、テニス、柔道、剣道、ダンス、ゴルフ、陸上競技、フェンシング、パドミントン、ウォータースポーツ、スノースポーツ、ニュースポーツ、野外活動など ●スポーツ健康科学特殊講義S(海外フィールドワーク科目) 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ健康科学のための自然科学入門A ●スポーツ健康科学のための自然科学入門B ●現代社会論 ●発達と学習の心理学
2年次	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎実習 	<ul style="list-style-type: none"> ●公衆衛生学 ●トレーニング論 ●スポーツ運動学 ●スポーツ教育学 	<ul style="list-style-type: none"> ●生命医科学概論 ●人体の構造と機能I ●スポーツ医学A(内科系) ●スポーツ医学B(外科系) ●生活習慣病概論 ●発達と老化 ●栄養学 ●学校保健 ●スポーツ栄養学 ●スポーツ・バイオメカニクス ●コンディショニング論 ●スポーツ心理学 ●スポーツ測定評価論 ●スポーツの原理 ●メンタル・トレーニング論 ●コーチング論 ●スポーツ・マーケティング論 ●障がい者スポーツ論 ●障がい者スポーツ論(応用) ●スポーツ統計情報処理 ●スポーツ倫理学 ●スポーツ・トピックス1 ●スポーツ・トピックス2 ●スポーツ行政論 ●スポーツ組織文化論 ●インターンシップ演習 ●スポーツ健康科学グローバル演習 ●身体運動制御論 ●スポーツ生体ダイナミクス ●スポーツ生化学 ●スポーツビジネス論 ●スポーツ・マネジメント論 ●環境生理学 ●スポーツ分子生物学 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ指導法実習 フィットネス、器械運動、水泳、バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球、テニス、柔道、剣道、ダンス、スノースポーツ、ゴルフ、パドミントン、陸上競技など ●スポーツ健康科学応用演習 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物学 ●学習心理学(学習・言語心理学I) ●心理心理学(神経・生理心理学) ●学校心理学(教育・学校心理学) ●健康心理学(健康・医療心理学) 	
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ●演習Ⅰ ●演習Ⅱ 		<ul style="list-style-type: none"> ●ヒトの病理と防御システムI ●リハビリテーション医学 ●薬理学 ●精神保健論 ●競技者育成システム論 ●スポーツマッサージ・テーピング論 ●高齢者スポーツ論 ●スポーツ経済学 ●スポーツ人類学 ●スポーツ・メディア論 ●障がい者スポーツ指導論 ●スポーツ健康外国書講読I ●スポーツ健康外国書講読II ●健康教育学 ●スポーツ健康科学特殊講義A ●スポーツ健康科学特殊講義B 	<ul style="list-style-type: none"> ●生化学 ●内科学概論 ●臨床解剖学概論 ●外科学概論(病態生理学) 		
4年次	<ul style="list-style-type: none"> ●演習Ⅲ ●演習Ⅳ ●卒業研究A ●卒業研究B 		<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業論文テーマ(これまでの事例) ●障害者スポーツにおけるアンチ・ドーピングの現状と課題 —ポッチャ競技を事例として— ●肥満ラットに対するメラトニン投与を伴う運動トレーニングがミトコンドリアの融合 —エンゲージメント率に着目して— ●朝本代替飲料の摂取がエネルギー代謝及び認知機能に与える影響の検討 —包括的評価の方法確立に向けて— ●「社会的便益」を実現するスポーツ振興政策—政策形成過程を視点に— 		

※その他に、全学共通教養教育科目、外国語教育科目(全学共通教育科目)などがあります。



学びたいこと



3年次生
今村 瑞

「指導者を正しく評価する」
そのための「モノサシ」づくり
ゼミでは取り組んでいます。

「アスリートと指導者」、「競技と生涯スポーツ」 人生を豊かにするスポーツのあり方を探求。



伝えたい思い



准教授
松倉啓太

「競技者」だけでなく
「指導者」も幸せを享受出来る
スポーツ界を目指して。

私は幼いころからプロサッカー選手を目指してきましたが、高校二年生の時に自分の将来像にプレーヤーではなく、指導者を思い描くようになりました。当時好きだったイングランドのプレミアリーグの指導者を目指したいという思いが強く、そのためにはまず語学力が必要と感じ一年間を他大学で過ごした後、スポーツ健康科学部へ転入学してきました。プレーヤーから指導者へ目標を移すようになった背景には、自らの経験も含めサッカーにおいては強豪校と言われる学校においても、指導についてはまだまだ昭和的な「精神論」が色濃くあり「このトレーニングって本当に正しいの?」と感じることも多かったからです。また、サッカーだけではなく「強いチームの指導者」=「優れた指導者」という理解のされ方にも、違和感を持つようになりました。そんな思いからプロサッカーチームでの実績とコーチング技術に留まらず指導者を取り巻く環境にまで目を向ける松倉先生のゼミを選び「スポーツ指導者の評価」を自分の研究テーマとしました。指導者を目指すという漠然とした想いは、いまでは科学的思考と実践を基本とした指導を通してスポーツ界全体を良くしていきたい...へと大きくなりました。そして現在は、全ての子供たちが正しい指導を受けてスポーツを楽しむことができる環境を作りたいと考えています。その第一歩として子供たちのためのスポーツチーム作りを目指し、少しずつその準備を進めています。自身の経験やゼミでの学びを活かし、日本のスポーツ界をより良いものにしていきたいです。松倉ゼミでの学びは、私を人間としてひとまわり成長させてくれたように感じています。

私のゼミでは、大学生やJリーグの下部組織でのコーチ経験を活かし、将来そのような現場で活躍したいと考える学生たちに「指導者としての考え方とそれに必要な知識」、「トレーニングの立案と実践」というスポーツにおけるコーチング論の指導と支援を目標としています。近年コーチングにおける考え方として「アスリート(プレーヤー)・センタード=選手自らが考える」、「選択する」ということを中心に捉える」という考え方が広がってきております。それはプロスポーツであっても趣味で行うスポーツであっても同じで、そのスポーツを通して得られる「幸せ」を享受するには良い指導者が求められ、選手の4つの要素「4CS」*を育むことが必要と言われております。それらを育むことができる指導者がきちんと評価され、スポーツに関わる「幸せ」と「生業」を得られる社会を目指したいです。この分野の研究では「コンテキスト」という表現を用いることがあるのですが、選手・指導者の性別や能力、競技環境や取り組み方、年齢、既往歴などが違えば指導者に求められる要素も違います。そのため私たちの研究においては唯一絶対の答えが必ずしもある学問ではないので、ゼミでは実践の場を提供すること、ディスカッションの時間を大切にしています。学生たちはゼミで学んだことを活かしスポーツに関わる仕事に就いてくれることを期待しています。そうでなくとも社会や企業で、そして家庭で人を育てる機会や場面はたくさんありますので、その中でゼミでの学びを活かしてくれれば...と思っています。サッカーW杯や野球のWBCでの日本代表の活躍はあれだけの興奮と感動を与えてくれました。そんな力がスポーツにはあり、それをコーチング論を学ぶことで下支えすることが出来れば嬉しいです。

*「4CS」= Competence : 有能さ / Confidence : 自身 / Connection : 関係性 / Character : 人格

インターンシップ演習

得るものは予想以上に!
会社の雰囲気を感じ
就活へのやる気がアップ。



自分で選んできたスポーツや健康にかかわる企業において、一定の基準を満たしたインターンシップに参加し、報告・申請を行うと大学の単位として認定される科目です。大学では学べない、実社会で貴重な経験を積むとともに、修学の目的を明確にしてくれます。また、卒業後の進路や就職先を考える上でもインターンシップ演習は価値ある科目であり、将来のキャリアプランの設計に役立ちます。

ウォータースポーツ

自然と向き合う冒険心、
自然を克服する達成感。
湖で学ぶ仲間との協調性。



1年次の実技科目となる「スポーツ方法実習」ではテニスやサッカーなど様々な種目を設置しています。入学間もない学生にとって、共にプレーする実技科目は、コミュニケーションを通して仲間との絆も生まれる良い機会を提供します。中でも人気の「ウォータースポーツ」では、琵琶湖のBSCウォータースポーツセンターでディンギー(ヨット)、カヤックやウィンドサーフィンなどを実習、自然と向き合う中で協調性を学びます。



学びたいこと



3年次生
高丘颯俊

専門領域にとらわれない
社会に役立つ「人間形成」の場。
それがこのゼミの本質と感じます。

小学生の頃は水泳やダンス、中学・高校とサッカー、ハンドボールと自分が興味を持った競技には臆することなく飛び込んでいく方だったので、大学進学を考える時も「学びの選択肢が多い」というのがポイントでした。スポーツ健康科学部はスポーツや運動を糸口としながらも、その研究対象は多岐にわたります。ただ、学ぶべき領域が広い分、一、二年次では自身の興味が漠然としていました。その中で「食事は人の基本となる部分」である点、また就活においても「食品」という市場性のある世界を感じるようになり、三年次のゼミ選択時にはその思いを大切に「スポーツ栄養学」をテーマとする海老根ゼミを選びました。

主体性を重んじるゼミのスタイルは私に合っていて、ゼミのホームページの管理やゼミ合宿の持ち込みプレゼンをカリキュラムに組み込んでもらうなど、自ら手を挙げ積極的に取り組んでいます。そんな海老根ゼミの特色は三年次生、四年次生そして院生まで一緒に学ぶスタイルの「縦ゼミ」と、先生による厳しい「メール作法」の伝授でしょうか(笑)。日ごろ何気なく使うメールやラインについて本当に厳しいんです。その指導を通して我々ゼミ生は「文章の組立て」や「思考力」、「相手に対する配慮」など、今後社会人となる上で大切な「伝える力」が自ずと養われているように思います。海老根先生はもちろん「スポーツ栄養学」の第一人者なのですが、私は「最高の教育者」としても尊敬しています。

スポーツ健康科学部での学びは、ルールがあるのではなく、自分でルールを敷く学びです。そこにはたくさんの選択肢があるので、そこから一本に絞り、大学四年間の中で、次の進路を見つけていけば良いと思います。

未知なる病や超高齢社会にどう立ち向かうか いま求められる運動の健康メカニズムを探求。



研究を通じた「人間形成」
そのための良き伴走者として。

伝えたい思い



教授
海老根直之

私のゼミでは「栄養学」という分野の中で、特にスポーツとの関係に着目した「スポーツ栄養学」、もう少し詳しく言うと「エネルギー代謝」を中心的な研究テーマに据えています。私自身が学生時代にこの分野の第一人者の先生に出会い、指導を受ける中で関心を高め、社会的意義と奥深さを感じ、現在ではライフワークとなりました。この出会いがなければ留学することもありませんでしたし、他の道を歩んでいたに違いありません。そんな経緯を経て、こうして教壇に立たせてもらっています。現在では研究を学びの最良のツールと位置づけ、研究活動を通じた学生たちの人間形成こそが、このゼミで私が果たしたい役割です。

ゼミの特徴として「縦ゼミ」という形式で、三・四年次生、そして院生と一緒に学ぶという点が挙げられます。先輩の研究手法や取り組み姿勢を肌で感じ取れるだけでなく、研究テーマが継承・深化されていくことは、学問として有意義で価値あることです。三年次生にとっては先輩が同席するので緊張もあると思いますが、学生からは相互作用による成長の勢いを感じます。ゼミ生たちの好奇心や成長に、むしろ私が追い立てられることもあります。それは嬉しい限りです。また、Zoomを使いゼミの場に卒業生も参加できるようになりました。これは在校生・卒業生の双方にとって新鮮で貴重な時間を提供してくれています。学生たちが社会人となった後にも縦ゼミの繋がりを大切にしてくれることには感謝しています。えびゼミでの研究や学びにはそのまま社会で役立つ内容が沢山含まれています。ただ、学生たちはゼミの仲間や先輩らと共に切磋琢磨したことで「上限のない可能性」を手に入れていますので、人々が幸せになる社会に力強く貢献してくれることを疑わずに送り出しています。

卒業研究発表会

お互いに切磋琢磨し、寝る間も惜しんで仕上げた論文。プレゼンは最高の大舞台。



最終学年では自身の興味あるテーマを掘り下げ、4年間の学びの集大成として卒業論文(卒業研究)を作成します。実施した卒業研究の内容について、ポスター発表または口頭発表の形式で各自がプレゼンテーション。最高潮の緊張感の中で臨む大舞台は、学びを共にして来た仲間との良き思い出となると共に、その経験は社会へ踏み出す確かな自身へととなります。

◀2019年度発表会の様子

フィールドワーク(現地調査)

現地には本や講義ではわからなかった景色と学びがたくさんある。



しまなみ街道でのスポーツツーリズムの調査(二宮ゼミ)や大阪の長居球場でのスタジアム運営のインタビュー調査、仙台のゼビオアリーナへの現地調査、2020年に開場された亀岡の京都スタジアム(サンガスタジアム)で働く方へのヒアリング調査(共に庄子ゼミ)など、各地へのフィールドワークがマネジメント領域のゼミで実施されます。計画・準備・実施のプロセスを通して社会人として必要な力を身につけます。



学びたいこと



3年次生
松尾 藍

大切なのは
自分や身近な人に
「置き換え」て考えること。

「立場が変わるだけで社会や目の前の景色がこんなに変わるんだ。」それに気付いたことがスポーツ健康科学部を志望した理由です。

中学、高校とバスケットボールに打ち込み、高校ではインターハイ出場を目標にしていたのですが、練習中に前十字靭帯を怪我してしまいました。また、予期せぬコロナ禍でインターハイの開催自体が中止されることになり、メンタルの部分でも随分と落ち込んでしまいました。そんな怪我のリハビリや車いす生活を送る中で見えてきたのが、私を支えてくれる人の存在でした。もし怪我をしなかったら、一息が付かなかったかもしれません。そして、支えられる側にいる人のことについても考えるようになりました。

それもまた三年次のゼミ選択では、迷わず障がい者スポーツをテーマとする河西先生のゼミを選びました。ゼミでは障がい者スポーツを講義の知識にとどまらず、実際に経験を通して学んでいます。また学外では特別支援学校や障がい者スポーツ大会等の運営・企画・支援活動にも携わっています。そこで感じるの自分がかようなように、障がい者スポーツの認知度は上がっているのに、障がい者への理解度はまだまだ低いということと、障がい者スポーツだけではなく広義の「インクルーシブ教育」の必要性です。

私の場合は「怪我」という一時的な障がい期間でしたが、もっと長い期間、あるいは一生それを受け入れて生きていかなければならない人がたくさんいます。そのことをもっと知ってもらい誰もが支え合って生きる社会を作るために、進路としてゼミでの学びを活かせるようなボランティア活動に理解のある企業への就職や、体育教師として障がい者スポーツの普及に取り組んでみたいと考えています。

教職課程

人の成長に寄り添い、支えたい。
保健体育教師としての将来に
無限の可能性を求めて。



誰もが共にスポーツを 楽しむこと
それはスポーツの価値を 高め、社会を成熟させる。



自ら体験することで

見えてくる世界——
「疑問」を持つことの大切さ。

伝えたい思い



助教
河西正博

私自身の障がい者スポーツとの出会いは当時、在籍していた福祉系学部の授業で2000年に開催されたシドニーパラリンピックの「車いすバスケットボール」の映像を見た時に始まります。きっかけは単純に「カッコイイ」というところだったのですが、そこから「福祉」と「スポーツ」のあり方に関心を持ち、学内で車いすバスケのサークルを作り、実際にプレーや運営に携わることで関心はさらに深まりました。シドニーから東京まで約20年、表面上の関心は深まりつつも実際に競技や選手に接する機会は少なく「パラリンピック」や「障がい者スポーツ」という言葉は知っていても、体験機会は少なく実質的な関心はまだ高いとは言えません。それを変えていきたい……そこが私の研究であり、活動の根本的な部分です。ゼミ生には座学だけでなく、自らの体験を通して学んでほしいと考え、ポッチャや車いすバスケ、パラバドミントンを取り入れ、まずは「やってみて楽しい」を入り口に、そこからその楽しさと共にある障がい者スポーツの抱える課題を見つけ、それらを解決するための学びを大切にしています。その中で学生にはいろいろなことへ「疑問をもってほしい」と思い、敢えて必要以上の予備知識を与えなかったり、事前の段取りも最小限にして障がい者スポーツの現場に立たせるようにしています。それは「自分なりに考える」姿勢を培ってもらうためです。「障がい者スポーツ」という職域はそれほど広いわけではありませんので、学生はここでの学びを直接的に社会で活かす機会は少ないかもしれませんが、けれども、この社会にはいろいろな人たちがいることを知り、学ぶことでまさに「障がい」という壁を壊していくような社会貢献のできる人物になってくれることを願っています。

資格

大学での学びを活かして
資格を取得し
スポーツで社会を支える。



所定の単位の修得で、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者(コーチングアシスタント、スポーツプログラマー)、健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士、日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員(初級、中級)の資格を取得できます。

※一部、検定試験合格が必要な資格もあります。
※本学部ではアスレチックトレーナーや理学療法士の資格取得はできません。

本学部には、スポーツを教育に活かす夢を持った学生も多く、卒業後、教員になることを希望している人は、【教職課程】に登録し、所定の科目・単位を履修することで、

- ・「中学校教諭一種免許状(保健体育)」
 - ・「高等学校教諭一種免許状(保健体育)」
- の教員免許取得が可能です。

※小学校教諭の教員免許には別途資格が必要です。



だから、私は同志社を志望した。

文武両道

スポーツ健康科学部を志す若者には異口同音に発する言葉があります——それは「文武両道」。競技者としてスポーツに打ち込んで来た彼らが学びの集大成の場である大学を選ぶに際し、「学ぶことを諦めたくない・・・」という思いがそこには表現されているようでもあります。皆さんの先輩たちの「生の声」に耳を傾けてみてください。



「いつも全力でありたい」
スポーツも学びも・・・。

日本航空高等学校 出身 大内美里沙

私はアスリート推薦でスポーツ健康科学部に入学しましたが、他大学ではなく同志社大学を選んだのは、このスポーツ健康科学部なら単に競技としてのスポーツではなく「科学」「健康」「ビジネス」というスポーツをしていく上で大切な要素を「学ぶことができる、学びたい」と考えたからです。二年次の時は海外遠征も多く、出席できなかった講義については友人に教えてもらったり、時には先生の研究室へ行ってわかるまで教えていただいたことも。スポーツも学びも今しか打ち込めないからこそ「諦めたくない、すべてに全力でありたい」と私は思っています。先生、先輩、学友、そして施設。自主性を重んじつつ、必要な時はしっかりと支えてくれる環境がここには揃っています。「スポーツ」と「学び」の両立、それは自分自身の思いの強さが決めるものだと思います。



「知識は行動に移してこそ意味がある」
私が大切にしている思いです。

同志社国際高等学校 出身 薩摩拓斗

自宅がキャンパスに近いこともあり、中学生のころから同志社大学は親しみのある存在でした。また小三から野球やフットサルなどスポーツに打ち込んできたこともあって、学部選びも自然とスポーツ健康科学部を志すようになり、現在は硬式野球部でトレーナーとして活動しています。選手ではなく、トレーナーを選んだのは高校時代に所属していた野球部に監督はいたのですが、コーチングやトレーニングは選手の自主性に委ねられていたので、そんなところから科学的なトレーニングやコンディショニング、ケアの重要性を感じるようになりました。トレーニング科学領域の授業で得た知識によって論理的にスポーツやトレーニングを見る力が養われたり、学部を越えた心理学部の授業の受講では選手のモチベーション維持などメンタルの部分でとても勉強になっています。「学問を単なる知識に終わらせない」その環境がここにはあります。



故郷が恋しくなることもありますが
いまは大学生活をエンジョイしています。

福岡県立修猷館高等学校 出身 末光琴梨

生まれ育った福岡を離れ初めての一人暮らしで、両親のありがたさを感じています。高校時代「競技」として陸上に向かい合ってきた私にとって、スポーツ健康科学部はスポーツだけでなく、健康という面も学べる点や時間割の自由度などが入学の動機となりました。インターハイを目指し過度のトレーニングや自分自身にプレッシャーを課してしまい、結果として体調を壊し競技スポーツを離れることになりましたが、いまはサークル活動として陸上を楽しんでいます。そのような経験もあり、スポーツに限らず「支える側」の視点を授業を通して学び、就職先は「健康」を企業理念に掲げるような企業を目指したく思っています。ここでの授業には1年～4年次生まで学年を越えたスポーツ実技の授業が設けられているので、いろんな人との出会いがあったり、お互いの経験を共有・共感し合えたりすることで、学生同士の交流もあり、それが私自身を大きく成長させてくれているように感じます。



CAREER DESIGN

キャリアデザイン

■ スポーツ健康科学部独自のキャリアセミナー

本学部では、全学年を対象とした年数回のキャリアセミナーを実施しています。株式会社マイナビのご協力による「エントリーシート・面接対策講座」「本選考対策総まとめセミナー」など、就活の時期にあわせ、タイムリーな情報を提供します。また、本学部卒業の社会人や大学院生を招いた講演会も開催。年齢の近い社会人や大学院生の生の声が、自分の将来の姿をイメージしはじめる絶好の契機となります。

■ 学生一人ひとりへの個別面談

1～3年次生各学期終了時の単位修得状況に応じて、教員による個別履修指導を行います。学生一人ひとりと面談し、学習に関わる事から、クラブやアルバイトをふくめた生活の状況についてまで助言します。特に1年次生には大学院生によるチュートリアルセミナーを毎週実施し、マンツーマンで指導。わからないことを質問したり、学習計画のアドバイスを受けるなどして以降の学業に活かします。

■ オンラインのデータベースを完備

本学キャリアセンターでは、各種セミナーの開催、対面・Webによる個別相談などを通して学生の就職活動をきめ細かくサポートします。センター内資料室では企業情報や就職関連書籍など多くの資料の閲覧が可能です。キャリア支援システム「e-career」は、求人・採用試験情報、就職状況情報のほか様々な独自情報をタイムリーに提供するWebシステムで、就活の貴重なツールとして利用できます。

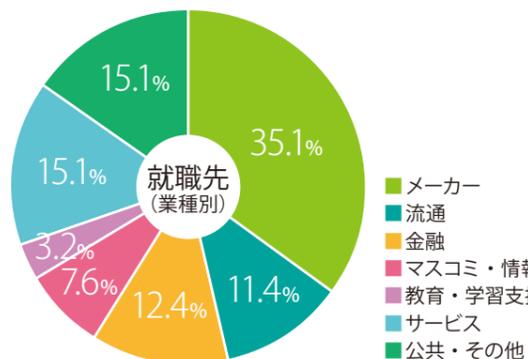
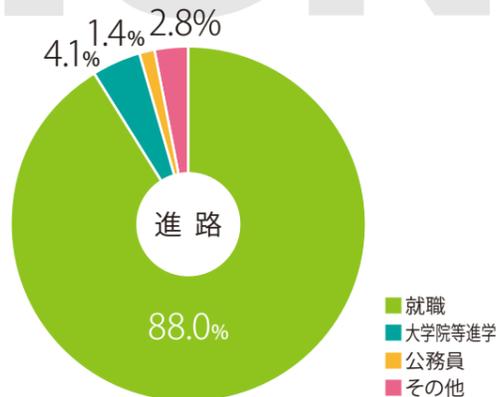
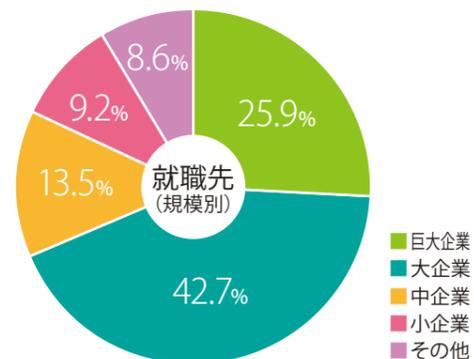
■ グローバルに活躍したい方へ

将来、外資系企業や国際機関で働きたい、語学力を活かして働きたいと考えている学生を対象に、キャリア形成を目的としてグローバルキャリアフェア（7～9月頃実施予定 全学年参加可能）を開催しています。グローバルなフィールドで活躍中の社会人による講演会など、さまざまなセミナーやイベントを用意しています。1年次生も参加でき、有意義な学生生活を送るヒントを得ることができます。

スポーツ健康科学部での学びを、社会で生き抜く力に。スポーツ健康科学部では自主性を重んじながらも、各自が修得した専門性を活かして社会に貢献できるよう、進路選択のためのバックアップ体制を強化しています。

大学のキャリアセンターによるきめ細かい就職支援に加えて、スポーツ健康科学部独自の講座・セミナーなど、さまざまな方面から学生一人ひとりに寄り添ってサポートします。

《数字でみる就職状況：2022年度》



進路・就職先

本学部は2012年3月に第1期生を輩出しました。以下は現在までの主な学生の内定企業一覧を記載しております。(主な進路・就職先。順不同。企業名は就職当時の名称)

■メーカー

アディダスジャパン、デサント、ミズノ、ヨネックス、アシックス、オムロンヘルスケア、タニタ、トヨタ自動車、三菱自動車、三菱電機、パナソニック、日本電気、富士通、オリンパス、京セラ、島津製作所、ヤマハ発動機、クボタ、神戸製鋼所、旭化成、帝人、ワコール、ニチコン、第一三共、大塚製薬、エーザイ、久光製薬、ツムラ、ロート製薬、小林製薬、サントリーホールディングス、キリンホールディングス、アサヒビール、アサヒ飲料、サントリー食品インターナショナル、カゴメ、日清オイリオ、味の素、キッコーマン、キュービー、明治、花王カスターマーマーケティング、ライオン、ジョンソン・エンド・ジョンソン、サンスター、日本製粉、山崎製パン、森永乳業、伊藤園、バンダイ 他

■金融

三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほフィナンシャルグループ、リそなホールディングス、関西みらいフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行、三菱UFJ信託銀行、三井住友信託銀行、池田泉州銀行、関西アーバン銀行、京都銀行、滋賀銀行、北陸銀行、南都銀行、福岡銀行、京都中央信用金庫、日本生命、住友生命、東京海上日動あんしん生命、あいおいニッセイ同和損保、東京海上日動火災保険、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SMBC日興証券、三井住友海上火災保険、野村證券 他

■サービス

セントラルスポーツ、ルネサンス、三井物産、丸紅、JR東海、JR東日本、JR西日本、阪急電鉄、関西電力、全日本空輸、ANA関西空港、日本通運、西武ホールディングス、出光興産、オリックス、住友不動産、阪急不動産、東急リハビリ、近畿日本ツーリスト、HIS、クラブツーリズム、総合警備保障、セコム、吉本興業 他

■マスコミ・情報通信

NTT西日本、ソフトバンク、KDDI、ヤフー、NTTデータ、日本放送協会 (NHK)、静岡朝日テレビ、九州朝日放送、朝日新聞社、報知新聞社、京都新聞社、博報堂、リクルートキャリア、マイナビ、サニーサイドアップ、ジャパンウェイブ 他

■流通

三井物産、伊藤忠商事、丸紅、住友商事、アルペン、ゼビオ、JR西日本伊勢丹、高島屋、イオン、ローソン、ニトリ、ヨドバシカメラ 他

■教育・学習支援

東京都保健体育教諭、神奈川県保健体育教諭、京都府保健体育教諭、横浜市保健体育教諭、神戸市保健体育教諭、堺市保健体育教諭、近畿大学、聖心女子学院、四天王寺学園 他

■公共・その他

東京都庁、愛知県庁、石川県庁、滋賀県庁、国土交通省、国税専門官、出入国在留管理庁、海上保安庁、京都市、大阪市、天津市、城陽市、大阪府警、京都府警、愛知県警、岡山県警、山口県警、東京消防庁、大阪市消防局、京都市消防局、富山市消防局、日本中央競馬会 (JRA)、日本赤十字社 他

■大学院進学

同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科、同志社大学大学院総合政策科学研究科、同志社大学大学院生命医科学研究科、同志社大学大学院脳科学研究科、筑波大学大学院人間総合科学研究科、大阪府立大学大学院生活科学研究科、九州大学大学院システム生命科学府 他

学生時代に思い描いた夢を超えて。



辻村 純平 さん
三井物産株式会社
ウェルネス事業本部 ホスピタリティ事業部
2016年卒 兵庫県立長田高等学校出身

私が就職活動を始めたのは当時の中では少し遅めの三年次2月頃、海外の大学院進学も考え、その他教職課程も受講したり、将来のキャリアは漠然としていました。そんな思いのままに参加した就職セミナーで、三井物産がMAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島に運営に関わっていることを知り「私が挑戦したいのはこういう仕事だ!」と直感的に感じました。希望が叶い入社でき、最初に配属されたのは財務部。ここで約二年半、商社の基礎を学んだ後、「修業生制度」でメキシコへ語学留学と現地の発電所の運営・開発に二年程携わりました。「次は

卒業生が語る 「我が同志社」

スポーツに関わる仕事がしたいな。」と想っている中で日本に戻りウェルネス事業を担当する財務経理部門への配属となった後、「社内求人制度」で自ら手を挙げて入社以来希望していたこのポジションでの仕事が始まりました。現在は2025年秋にオープンするBリーグ「アルバルク東京」の新しいアリーナ建設と運営企画をサポートさせていただいています。クラブの皆様と共に、持続的にファンや地域の方々に愛される場所を目指して新アリーナでの観戦体験を作り上げていくことは、卒論のテーマに選んだ「スポーツを通じた社会課題の解決と企業利益の両立」に正に仕事として取り組んでいる実感があります。入社後7年の年月の中で様々な経験を経て、今こうして学生時代の想像を超えて、ワクワクしながら仕事を出来ていることは本当に幸せだと思います。

瀧本 未来 さん
株式会社カープスジャパン
新規事業開発部
2021年卒 近江兄弟社高等学校出身

就職活動を始めるのは遅く、3年生の年明けくらいからスタートさせました。大学で「健康」の大切さを改めて学び、食品メーカーも志望先にしていた既に内定もいただいていた。そんな中でここに決めたのは選考を通して、自分が目指したいものは「運動」を基点とした仕事だということに気付いたからです。大学でバスケットボール部のキャプテンを務める中で大切にしてきたのは「全員バスケット」。その中で「誰かのため」に役立つことの価値と喜びを知りました。きっとそれが「健康を必要としている人のため」「社会のため」に役立ちたいとい

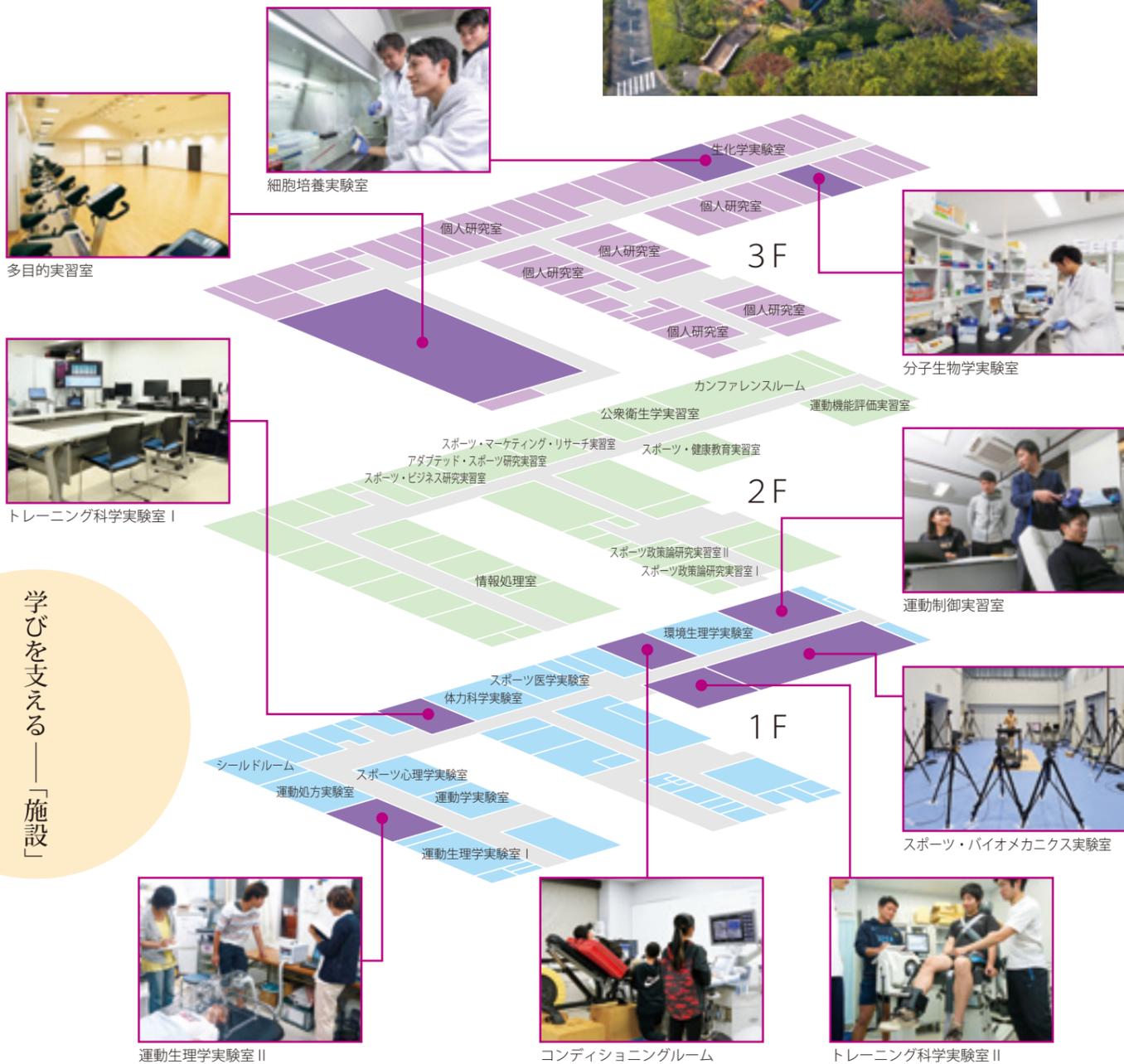
う気持ちへ動かされ、この仕事を選びました。本社勤務、大阪や沖縄などの現場勤務を経て2023年2月から現在の新規事業開発部に配属となりました。現在取り組んでいる新規事業は、カープスとは別の新たな業態ですが「健康」そして今後の日本社会において必要とされるものと自負しています。まずは、この新規事業をしっかりと立ち上げ、軌道に乗せることが目標ですが、その先には年齢を問わず人生を謳歌する人たちの増やし、日本の健康寿命を伸ばしたいという夢があります。運動やスポーツには社会や人生を豊かにしてくれる力があります。学部で得られる知識や経験は、その力を社会で活かしていくためのバックグラウンドとなるので、学生のみなさんには、大学でしか学ぶことの出来ないものにも楽しく興味をもって取り組んで欲しいと願います。

自らの夢に妥協はしないこと。



磐上館

京田辺キャンパス内の「磐上館(スポーツ健康科学部の研究棟)」には、最先端の「スポーツ」と「健康」に関する測定機器や実験室が設置されています。専門知識豊富な教員の指導のもと、学生は授業やゼミ、自らの研究テーマに沿ってこれらの機器や実験設備を活用し、日々研鑽に努めています。



学びを支える——「施設」

京田辺キャンパスには、ラグビー部をはじめとする強豪運動部がトレーニングに励むスポーツ関連施設が集約されています。この環境が学生アスリート達とスポーツ健康科学部の双方に相乗効果を生み出しています。



ラグビー場



トレーニングルーム



デイヴィス記念館(メインアリーナ)

多彩な指導陣

●: 大学院前/後期課程担当教員 ●: 大学院前期課程担当教員 ○: 大学院前期講義のみ担当

「スポーツ健康科学」の最前線で活躍する23名の教員が学生の志にしっかりと向き合い、豊富な経験と専門家としての知見を活かし「広く、深く」目指すべき目標へと導きます。その中で生まれた信頼関係は卒業後も変わることはなく、キャンパスを訪れる卒業生の姿もあります。

学びを育てる——「人々」



新井 彩(准教授) ○
《研究分野》
トレーニング科学/バイオメカニクス
《主な担当科目》
トレーニング論/基礎実習



海老根 直之(教授) ●
《研究分野》
スポーツ栄養学/栄養学
《主な担当科目》
スポーツ栄養学



遠藤 華英(助教) ○
《研究分野》
スポーツを通じた国際協力
《主な担当科目》
スポーツ・健康の科学C



藤澤 義彦(教授) ●
《研究分野》
スポーツ測定評価・方法
《主な担当科目》
スポーツ測定評価論



福岡 義之(教授) ●
《研究分野》
環境生理学/生理人類学
《主な担当科目》
生理学/環境生理学



北條 達也(教授) ●
《研究分野》
スポーツ医学
《主な担当科目》
スポーツ医学B(外科系)



石井 好二郎(教授) ●
《研究分野》
運動処方
《主な担当科目》
発育発達と老化



石倉 忠夫(教授) ●
《研究分野》
スポーツ心理学
《主な担当科目》
スポーツ心理学



岩田 昌太郎(准教授) ○
《研究分野》
良い保健体育授業の創造と教師の専門性開発
《主な担当科目》
スポーツ教育学



井澤 鉄也(教授) ●
《研究分野》
スポーツ生化学
《主な担当科目》
スポーツ生化学/生理学



上林 清孝(准教授) ○
《研究分野》
神経生理学
《主な担当科目》
身体運動制御論/基礎実習



河西 正博(助教) ○
《研究分野》
障害者スポーツ論/障害学
《主な担当科目》
障がい者スポーツ論



松倉 啓太(准教授) ○
《研究分野》
スポーツにおけるコーチング
《主な担当科目》
コーチング論/教育実習A・B・C



中村 康雄(教授) ●
《研究分野》
スポーツ・バイオメカニクス
《主な担当科目》
スポーツ機能解剖学



二宮 浩彰(教授) ●
《研究分野》
スポーツ・マーケティング
《主な担当科目》
スポーツ社会学



庄子 博人(准教授) ○
《研究分野》
スポーツビジネス
《主な担当科目》
スポーツ・マネジメント論



高倉 久志(准教授) ○
《研究分野》
運動生化学
《主な担当科目》
スポーツ健康科学のための自然科学入門



竹田 正樹(学部長/教授) ●
《研究分野》
スポーツ生理学
《主な担当科目》
スポーツ生理学



田附 俊一(教授) ●
《研究分野》
スポーツ運動学
《主な担当科目》
スポーツ運動学



若原 卓(准教授) ○
《研究分野》
バイオメカニクス/トレーニング科学
《主な担当科目》
スポーツ生体ダイナミクス



柳田 昌彦(教授) ●
《研究分野》
公衆衛生学
《主な担当科目》
公衆衛生学/学校保健



築瀬 康(助教) ○
《研究分野》
健康科学/リハビリテーション
《主な担当科目》
スポーツマッサージ・テーピング論



横山 勝彦(教授) ●
《研究分野》
スポーツ政策
《主な担当科目》
スポーツ政策論



奨学金には、経済的な困難を抱える学生の支援を目的とした経済支援奨学金と、学業やスポーツ、文化活動などを奨励することを目的とした奨励奨学金の2種類があります。経済支援奨学金には同志社大学奨学金(給付)をはじめとした本学独自の奨学金のほか、日本学生支援機構奨学金や民間・地方公共団体奨学金などがあります。いずれも、世帯収入や家族構成、学業の状況などから判断し支給が決定されます。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

【スポーツ健康科学部が選考・推薦する奨学金(奨励奨学金)の選考基準(2023年度の場合)】

奨学金種類	選考基準
同志社大学育英奨学金 (7名以内、各30万円)	<ul style="list-style-type: none"> ●学業分野: 3年次生の学業成績優秀者(累積GPAの優秀者)2名、ならびに公募によるスポーツ、文化、芸術、社会活動などの業績が優秀かつ学業成績が優れる者1名 ●正課外分野: 公募によるスポーツ、文化・芸術、社会活動などの分野で業績をあげた者に対して大学全体で20名以内(学部より最大4名)
同志社大学 スポーツ健康科学部奨学金 (8名、各10万円)	<ul style="list-style-type: none"> ●学業分野4名: 1・2・3年次生の学業成績優秀者各1名(3年次生は2名) ●スポーツ、文化・芸術、社会活動などの分野で業績をあげた者4名: 同志社大学育英奨学金同分野に準じる
同志社大学スポーツ健康科学部 教員父母連絡会奨学金 (12名以内、各5万円)	<ul style="list-style-type: none"> ●学業分野4名: 1・2年次生の学業成績優秀者各2名 ●スポーツ、文化・芸術、社会活動などの分野で業績をあげた者8名以内: 同志社大学育英奨学金同分野に準じる



(参考) 以下は2024年度入学生です。2025年度入学生の学費は、決定次第大学ホームページで公表します

第1年次合計	入学手続時納入必要額	学費			諸費
1,290,000	745,000	入学金	授業料	教育充実費	学会費等
		200,000	906,000	176,000	※8,000

- (1) 入学金は初年度のみ徴収します。
- (2) 授業料・教育充実費・実験実習料については、各々2分の1が春学期および秋学期学費です。
- (3) 入学金手続時納入必要額とは、入学金全額と、春学期学費および諸費の2分の1です。 ※諸費については、教員父母連絡会費(5,000円)、学会費(3,000円)
- (4) 第2年次から第4年次の学費は下表のとおり徴収します。

学年	授業料	教育充実費
第2年次	1,106,000	176,000
第3年次	1,106,000	176,000
第4年次	1,106,000	176,000

※諸費として、学会費(第1年次と同額)、教員父母連絡会費(第1年次と同額)を毎年徴収します。また、第4年次には全学部生から校友会費を徴収します。



【2025年度入試種別について(予定)】

入試種別	募集人数	入試概要	
一般選抜入試	90名	〈文系・文系型〉 「英語」(200点)、「国語」(150点)、「選択科目(地理歴史・公民・数学)」(150点)の3教科(500点満点)	
		〈理系・理系型〉 「英語」(200点)、「理科」(理科200点)、「数学」(150点)の3教科(550点満点)	
		※志願者は計3回「全日・理系」、「全日・文系」、「個別(理系または文系)」受験が可能です。	
		〈文系・文系型〉 「英語」(200点)、「国語」(150点)、「選択科目(地理歴史・公民・数学)」(150点)の3教科(500点満点)	
大学入学 共通テストを 利用する入試	5名	共通テスト3科目(400点満点) 「英語」(200点)、「国語、地理歴史・公民、数学、理科、情報」から2教科2科目選択(1科目100点)	
	10名	共通テスト5科目(600点満点) 「英語」(200点)、「国語」(100点)「地理歴史・公民」「数学」「理科」「情報」から3教科3科目選択(1科目100点)	
	15名	共通テスト3科目(400点満点)とスポーツ競技成績による書類審査(200点満点)の合計点(600点満点)にて判定。スポーツも勉強もアピールしたい方を迎え入れる制度です。 ※共通テスト3科目の科目の配点は3科目方式と同じ	
自己推薦(スポーツ)入試	20名	各種競技スポーツにおいて全国大会での試合に正選手として出場し、優秀な競技成績を収めた者を対象とした公募制の入試制度です。	
アドミッションズオフィス(AO)方式による入学者選抜	4名	学力試験では評価できない多様な能力、大きな可能性を秘めている人材を積極的に迎え入れる公募制の入試制度です。	
海外修学経験者(帰国生)入試	若干名	海外での学修経験があり、スポーツへの強い情熱を持つ学生を迎え入れる制度です。	
社会人特別選抜入試	若干名	セカンドキャリア構築に意欲を持つトップアスリートを対象とした入試制度です。	

※この他に推薦入試(法人内諸学校、キリスト教主義学校の地域ネットワーク連携高等学校)、アスリート選抜入試、京都府立高等学校特別入試、外国人留学生入試などがあります。



■ スポーツ健康科学部における国際交流

◇スポーツ健康科学特殊講義S(海外フィールドワーク科目)
約1週間の海外生活を通して現地のスポーツ事情に触れることで、国内では得ることのできない幅広い知見を身につけます。本学部の専任教員が引率するので海外経験のない学生も安心して参加できます。正課科目のため卒業必要単位にも算入されます。

これまで実施されたプログラム内容(年度毎に内容が変更します)
・カナダをめぐるアイスホッケー文化を体験 ・ドイツのスポーツ文化とその背景
・ニューヨークをめぐる最先端スポーツビジネスの視察

同志社大学の 留学サポート

- 各種留学説明会・イベントの開催
- 留学コーディネーターによる相談受付
- 派遣留学促進のための奨学金制度
- 語学テスト対策
- 留学生との交流イベント
- 冊子「海外留学マニュアル」の発行
- 資料コーナーの充実

※全学における留学・国際交流プログラムについては
右のQRコードをスキャンしてアクセス、ご覧ください。



◇学部間協定による派遣留学

スポーツ健康科学部ではオスナブルック大学教育文化学部スポーツ運動学科(ドイツ)とチュービンゲン大学経済学・社会学部スポーツ科学研究所(ドイツ)、およびマドリッド工科大学身体活動・スポーツ科学部(スペイン)と学生派遣交流協定を締結しています。留学中も本学に在籍し、留学期間は卒業に必要な4年の修業年限に算入されます。学部間の研究分野が合致した、学業上の相関関係が高い留学先なので、専門の分野をしっかりと学べます。

私の留学体験記



コロナ禍の中での留学ということもあり、当初の予定から半年遅れの9月に留学先のオスナブルックへ出発したのですが、正式に留学が出来るのが決まったのは2ヶ月前だったので、慌ただしく準備や手続きをしなければなりません。留学先の候補には同じドイツのチュービンゲン大学もあり、そちらには同志社大学EUキャンパスが設置されていますが、敢えて厳しい環境を求めてオスナブルック大学を選びました。でも、その厳しさは到着早々に現実のものになりました。毎年5名程度いる日

厳しくも、私を成長させてくれた留学に感謝。

本人留学生が何と私一人だけだったんです。籍を置く教育文化学部スポーツ運動科学科もその年の留学生は私一人で、普通なら留学生を考慮して英語を混ぜて行われる授業もすべてドイツ語でした。少しは自信のあったドイツ語もやはりネイティブは随分違い、最初のうちは話し相手もなかなかつかず、精神的にも正直きつく感じました。ただ、それでは留学した意味がありませんので、教室やルームメイトの仲間、スポーツコミュニティに自ら積極的に話す機会を求めていくようにしました。特に地元のサッカーチームに加わったり、週5日通ったジムなど共に汗する場では言葉を越えて友達が増え、ご飯や遊びに行くようになり、いまま繋がっています。少しまとまった時間が出来ると旅行もしました。留学

中に10か国を巡りましたが、そのうち8か国は一人旅。その頃にはもう言葉のことは気にならなくなっていましたから不思議です。この留学を通して「失敗するのは当たり前、時にはプライドを捨てることも大事」ということを身を以て体験しました。社会人になっても「わからないことは素直に聞く」姿勢を役立てていきたいと思っています。



《児島来生》 2021年度、学部間協定での派遣留学制度でドイツ・オスナブルック大学に留学。

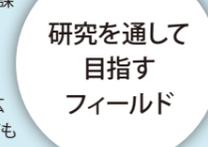
大学院 スポーツ健康科学研究科

現代社会では、健康寿命の延伸の基盤となる健康の重要性の認識が高まり、スポーツはアスリートがその頂点を争う競技スポーツだけではなく、一般の人々が健康のために楽しむスポーツまで幅広い領域にわたるものとして広く受け入れられています。これらの社会的ニーズを受け、本学では総合応用科学であるスポーツ健康科学の体系的な大学学部教育の上に、スポーツ健康科学に関するより高度な専門知識と卓越した理論を修得した専門家を養成するため、スポーツ健康科学研究科として大学院博士課程前期課程及び後期課程を設置しています。本研究科では、基盤となる「トレーニング科学」、「健康科学」、「スポーツ社会学」の3つの分野を基軸に、スポーツ健康科学に関連する基礎学問領域に関する深い知識と、実験・研究によって得られる新しい知見の獲得を目指します。さらに、多様化しつつあるスポーツ健康科学を解明するために、生命医科学や理工学領域及び工学技術の知識の導入を目指し、隣接研究科との積極的な連携を推進し、高度な専門知識を有し、健康の維持増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与・貢献し、活躍できる人物を輩出します。

健康科学研究 運動と健康 ヘルスプロモーションを科学的に探求する	トレーニング科学研究 運動能力と運動行動 パフォーマンスの向上を科学的に探求する	スポーツ・マネジメント研究 スポーツを取り巻く環境 スポーツの価値を社会的に探求する
--	--	--

スポーツ健康科学に関連する基礎学問領域の知識の涵養
隣接学問領域の知識の積極的導入

《高度な研究者として》 スポーツ健康科学の諸分野において新たな研究手法や学問分野を創造する能力を有した研究者として、国内外での幅広い活躍が期待できます。研究者として高度な専門的知識の深化を図るため、選択した1つの分野に関する知識の集中的な修得に重点を置きます。とりわけ、博士後期課程修了者には、高度な研究者としての期待が高まっています。	《民間の医療・健康関連産業でのキャリア形成》 医療関連企業やヘルスケア関連企業、ライフサイエンス関連企業などにおいて、健康とスポーツについての理論と実践の両面にわたる高度な専門知識を活かしたキャリア形成が期待できます。領域横断的な履修を行い、ビジネスの現場での様々な局面に対応できる柔軟性と実践力、そして幅広い知見を身につけます。
《学校教育における保健体育教員(専修免許)》 中学校・高等学校などの学校教育の現場で、より専門的かつ幅広い知見を有した保健体育教員としての活躍が期待できます。子どもたちの体力低下が懸念される昨今、教育現場が求めているのは心理学やコーチングなどにも精通した優秀な教師。教育現場で必要とされる多様な知識を幅広く修得し、即戦力となれる力を磨きます。	《生涯スポーツ関連領域で活躍できる人材》 高齢化が進む現代日本におけるQOL 向上の観点から今後ますます需要が高まる生涯スポーツを、自治体などにおいて指導・発展させる人材となることが期待できます。個々が選択した専門分野を深めるとともに、関連する分野を重点的に履修して、生涯スポーツ指導の現場で即戦力となれる力を修得します。



「健康」は「幸せ」につながる

私の研究室で、いま取り組んでいる研究テーマは「筋肉の硬さ」についてです。

インターネットやSNSが情報源として利用される現代、そこに書き記される情報は必ずしも確かなものとは言い難いところがあります。特に健康や美容というジャンルは

関心が高く、注目されるがゆえに個人的な記事だけでなく、記事広告的な表現の中で検証もされていない事象が

実しやかに語られているのを目にします。これは本当に危険なことであり、

期待した効果が得られないどころか逆に健康を害することにも

なりかねません。

私は大学院で、超音波せん断波エラストグラフィ機能を使って筋肉の硬さに関

心して取り組んでいます。中高齢者・アスリート・子ども、それぞれ筋肉に求められる負荷も違えば、適した筋肉の硬さも異なります。正しい環境下での実験や検証によって得られた「正しい情報」を提供し、社会に貢献していきたい・・・それが私の研究に対する思いです。そのような思いに賛同していただける企業との産学協同の研究も始まっています。

「幸せは、健康あってこそ」のものだと思います。そして、その健康は「体」と「心」の両方で成り立つものです。私の研究は「筋肉」という体を対象とするものですが、両輪である「心から生まれる健康」も大切にしていきたいと常に考えています。



する研究に取り組み、卒業後は理学療法士として直に患者さんに向かい合い、そしていま再び研究室で「筋肉の硬さ」の研究に取り組んでいます。中高齢者・アスリート・子ども、それぞれ筋肉に求められる負荷も違えば、適した筋肉の硬さも異なります。正しい環境下での実験や検証によって得られた「正しい情報」を提供し、社会に貢献していきたい・・・それが私の研究に対する思いです。そのような思いに賛同していただける企業との産学協同の研究も始まっています。



、
か
け
が
え
の
な
い
存
在
。

スポーツ健康科学部 公式YouTubeチャンネル配信中!! パソコン、スマートフォン、タブレットで“Go To DOSHISHA”

YouTube / 同志社大学スポーツ健康科学部【公式】

スポーツ健康科学部の教員が授業をわかりやすく紹介する模擬授業のほか、20以上あるゼミの中から9つのゼミ紹介、スポーツ健康科学部の施設「磐上館」などをご覧いただけます。オンラインで憧れのキャンパスライフを体験してください。



下記のURLまたは左のQRコードをスキャンしてアクセスして下さい
<https://www.youtube.com/channel/UCGTuZVDJNhPgulSoNmdNvCg>



ACCESS

京田辺校地へのアクセス

大阪方面から

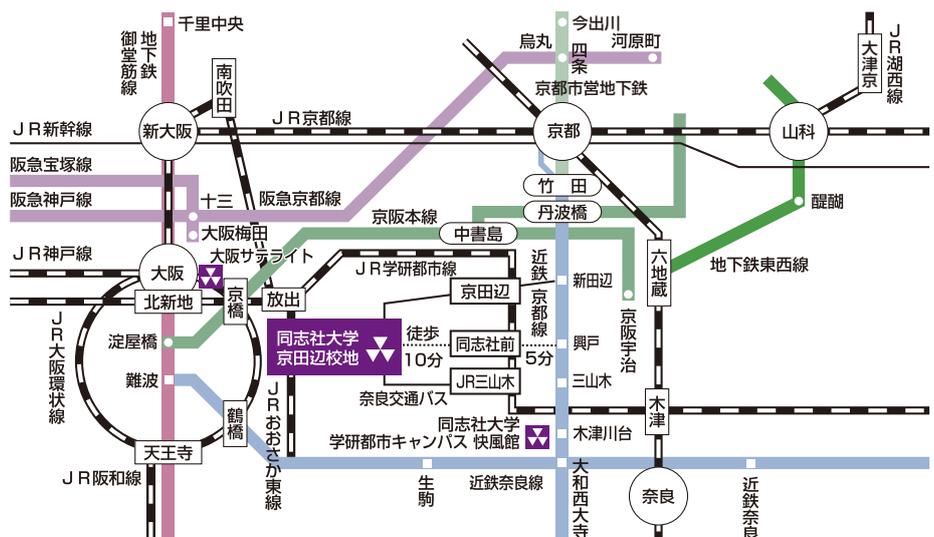
- ◆ JR環状線「大阪」から「京橋」へ約6分→JR学研都市線で「同志社前」へ約40分(快速利用)→徒歩約10分
- ◆ JR東西線「北新地」から「同志社前」へ約50分→徒歩約10分

京都方面から

- ◆ 近鉄京都線「京都」から「興戸」へ約25分(京都～新田辺間急行利用)→徒歩約15分

奈良方面から

- ◆ 近鉄奈良線「大和西大寺」乗り換え、近鉄京都線「興戸」へ約25分→徒歩約15分



同志社大学 スポーツ健康科学部

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL : 0774-65-6030 FAX : 0774-65-6029 E-mail : jt-spoj@mail.doshisha.ac.jp

<https://sports.doshisha.ac.jp/> 同志社大学スポーツ健康科学部 検索

右のQRコードをスキャンすると学部ホームページにアクセスできます。

